

開運大摩利支天閣 最上稲荷庭瀬支院 覚如山本了院

妙法華寺便り

令和5年6月号

◇ 行事報告 ◇

5月18日（木）摩利支天月例祭を執行いたしました。



今回は、日蓮宗の葬儀の際、引導文の一節によく読まれる御遺文^{ごゆいもん}についてお話しします。

「良^{うしとら}の廊^{わたりどの}にて尋ねさせ給へ、必ず待ち奉るべく候『波木井殿御書』。

意味は、^{りょうぜんじょうど}「靈山浄土へ来られたなら、その入口である良^{うしとら}（北東）の方角の渡り口で日蓮をお呼びなされ。必ずそこでお待ちしておるから」

と言うことです。死後の行き先が明確に示されていて、故人に死後の安心を与える名文です。本書は、弘安5年（1282）、波木井実長公に送られたもの一部で、聖人ご入滅の6日前に書かれたと伝えられています。波木井実長公は聖人に身延の寺領を提供し、給仕に勤められました。聖人はご一生を振り返り、最後に波木井公に謝辞を述べ、死後墓を身延に建てること、さらに後から来る弟子信徒に靈山浄土で待つことを約束して本書を結ばれています。（日蓮宗標語より）

ところで、浄土とは、法華経などの大乘仏教において、一切の煩惱やけがれを離れ、^{ごじよく}五濁や地獄・餓鬼・畜生の三悪趣が無く、仏や菩薩が住む清浄な国土のこととされ、煩惱に汚染されている衆生が住む穢土^{えいど}と対比されます。阿弥陀如来の西方極楽浄土、薬師如来の東方浄瑠璃浄土など如来の願意によって種々の浄土があるようです。

日蓮聖人は、お釈迦様がおられる浄土は法華経如来寿量品第十六に示されているように、過去・現在・未来において常住であると説かれました。であるならばお釈迦様のおられる法華経の会座である^{えざ}靈鷲山^{りょうじゆせん}こそが本当の浄土であり、靈山浄土と言われるのです。

さて、日蓮宗ではお曼荼羅（十界曼荼羅）をご本尊として、日夜お経を上げさせていただきます。お曼荼羅には「南無妙法蓮華経」と大きく書かれ、その下に日蓮・花押とあります。この形が基本であります。そして、四天王、不動愛染明王が鎮座



し、法華經守護の善神が座を占めます。十界曼荼羅は、十界互具じっかいごぐいちねんさんぜん一念三千の法門を具現化した奥秘の曼荼羅です。それは、日蓮聖人がこの御本尊（十界曼荼羅）に靈山浄土と言われる場所への到達を請願されたためです。故人の装束に、経かたびらがありますが、これにもお曼荼羅を書かせていただきますね。

お曼荼羅に向かいあってお経を上げることで、ご先祖様あるいはご自分の死後、日蓮聖人が待ってくださっている靈山浄土の入口へ一步一步近づいていく事が出来るのです。未だ到達されていないご先祖様へのご回向は援護であり、私たちの貯金です。既に到達されているご先祖様へのご回向は、日蓮聖人とあるく道を行きやすくするものであり、私たちへのご加護となるでしょう。

まずは、1日1回、お曼荼羅に手を合わせ、お題目を唱えましょう。

◇ クーラー奉納寄附の御礼 ◇

お願いしておりましたクーラー設置に伴う寄附につきまして、自由意志でのお願いにもかかわらず、35名の方より、432,000円のご奉納をいただいております。ここに厚く御礼申し上げます。有り難うございました。(6月14日現在)

◇ 行事案内 ◇

摩利支天月例祭

7月18日(火)、8月18日(金)、9月18日(月・祝)午前10時より執行いたします。

◇ 少年少女の集い ◇

来る8月23日(水)に当寺で少年少女の集いが一日の予定で開催されます。詳しくは追ってお知らせさせていただきますので、中学生以下のお子さんは是非参加下さい。

◎ お盆棚経のご案内

7月に入りましたら、お盆棚経のご連絡をさせていただきますので、宜しく申し上げます。

◇ 近況 ◇

今年は紫陽花の花が増えました。季節に合わせて綺麗にさいており、心を和ませてくれています。季節の変わり目ですので、お体ご自愛のうえお過ごし下さい。

合 掌

